

高等学校国語「国語総合」学習指導案

平成26年10月31日（金）3限

埼玉県立浦和第一女子高等学校 1年9組 42名

授業者 教諭 小菅 洋之

1 科目名 国語総合 「国語総合 現代文編」東京書籍

2 単元名 評論『〈顔〉という現象』 鷲田清一

3 単元設定の意図

4月からの半年間で評論文教材を4編扱ってきたが、夏休み前に行ったアンケートによると、生徒は中学校の時と比べて抽象度の高い、なおかつ長文の評論文の理解に困難を感じていることがわかった。このアンケート結果を元に、今回の教材を読む力を育成するものとして位置づけ、正確に読解する力を養うことを目標にした。

クラスや部活動、委員会活動において広範な人間関係を築く必要性に迫られている現在の生徒にとって、コミュニケーションの問題は切実である。教材の「〈顔〉という現象」は、そんな現代のコミュニケーションの根底にある身体性喪失の問題点を指摘し、直接的で双方向的なコミュニケーションによって他者を捉え直していく必要性を説いている。一方、筆者鷲田清一の文章の傾向としては、易しい言葉を用いて書かれている反面、括弧やルビの付いた語句に筆者の主張の核となる特定の意味を持たせていることが多く、一読しただけではわかりにくい面もある。

こうしたことを踏まえ、正確に語句を把握することを元にした読む力の育成を目指す。また、個人で読み取った内容を他者とのコミュニケーションの中でお互いに確認する言語活動を多く取り入れ、コミュニケーションにおける身体性を実感させる。その過程で自身の読みの不確かなところを補いながら、正確な読みを確認するために意味段落ごとの要約を行う。最後に意味段落ごとの要約を200字でまとめることで全体の論理展開の把握と、正確に文章を読む力の育成につなげたい。

4 単元の目標

（1）論理的な文章を読むことを通じて、筆者のものの考え方や論の進め方など、文章の道筋を的確に捉えようとしている。

【関心・意欲・態度】

（2）論理展開や文章の要旨を的確に捉えることができ、さらにそれを文章全体の要約文としてまとめることができる。

【読む能力】

（3）言語が社会の中で果たしている役割について理解している。

【知識・理解】

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	エ 読む能力		オ 知識・理解
単元の評価規準	筆者の考えを文脈に即して進んでとらえようとしている。	論理展開や文章の要旨を的確にとらえている。	読み取った内容を簡潔にまとめることができる。	言語が社会の中で果たしている役割について理解できる。
学習活動における具体的評価規準	①論理展開にも興味を持ち、自分の問題として考えようとしている。	②意味段落ごとのまとまりを基に論理展開や要旨を理解している。	③本文の要旨を意味段落ごとの要約を基に、200字程度でまとめることができる。	④記号という概念について理解している。

6 単元の指導と評価の計画（全3時間扱い）

時	○主な学習活動 ☆主な学習内容	具体的 評価規準	教師の指導・援助	評価の実際 (評価の観点・方法)
1	【導入】 ○単元目標の確認。 【読解】 ○本文の通読と3つの意味段落分け。 ☆段落分けを通じた論理展開の把握。 [第1段落の読解] ○「まなざす」と「見る」の意味の違いを二人一組で例文を挙げて捉える。 ☆言葉の差異の把握。 ○一方通行的な顔の問題点を捉え、第1段落を100字程度で要約する。 ☆要旨の的確な把握。	アー① エー② エー② エー③	・意味のまとまりを中心に、根拠を考えながら段落分けをさせる。 ・「まなざす」には、意思や感情が込められており、「まなざす」は「見る」とは違うことを理解させる。 ・まなざしを受容する自分自身が無意識のうちに抽象的な顔になっていることに気づかせる。	観察・発問・ワークシート等 ・積極的に他者と関わりながら、疑問や興味を持って文章をとらえようとしている。【関心・意欲・態度】 ・内容のまとまりを基に論理展開を把握しようとしている。【読むこと】 【規準に達しない生徒への手立て（以下、Cへの手立て）】 ・机間指導により、段落の概要を示すフレーズを見つけさせ、構成を把握させる。
2	[第2段落の読解] ○顔(面)の記号性を二人一組で確認しながら理解す	オー④ エー②	・コミュニケーションにおいて記号的な顔は誰もが理解出来る点で	観察・発問・ワークシート等 ・「〈顔〉という現象」に関して繰り返される語句の定義や顔面との対比

	る。 ☆記号（性）という言葉の一側面の理解と本文理解との関係。 ○「〈顔〉という現象」を理解した上で、問題点を把握し、第2段落を100字程度で要約する。 ☆要旨の的確な把握。	エー③	有効だが、そこに〈顔〉としての切迫感はないことに気づかせる。 ・顔面とは違い、〈顔〉の現象は、身体性を伴って、特定の「誰か」「人」に向かうものであることを理解させる。	に着目し、本文の記述を正確に読み取ることができる。【読むこと】 【Cへの手立て】 ・同内容の反復表現や具体・抽象の関係、対比関係に着目させる。文章を意味段落のまとまりとして捉えさせる。
3	【第3段落の読解】 ○（像としての）顔と（呼びかけとしての）〈顔〉との違いを明らかにし、筆者の考察を捉える。 ☆論理構成・要旨の把握 【まとめ】 ○各意味段落の要約を基に全体を200字程度で要約する。 ☆必要な内容を判断した上での要旨の的確な把握。	アー① エー② オー④ エー③	・前時までの読解を基に、（像）、〈顔〉、「〈顔〉が漂泊される」などの具体的な意味を考えさせる。 ・「〈顔〉への渇き」について自身の経験に基づいて具体例を挙げ、お互いに確認させる。 ・全体の構成を再確認させて、必要な内容の取捨選択をさせる。	観察・発問・ワークシート等 ・本文の内容を正確に読み取ることができる。【読むこと】 【Cへの手立て】 ・第2段落の内容を確認させる。 ・意味段落の要約を基に全体の要約をまとめられる。【読むこと】 【Cへの手立て】 ・机間指導により必要となる内容を確認し、個別に助言する。

7 本時の指導と評価の計画（2／3時間目）

（1）本時の目標

前時では一方通行的なコミュニケーションにおいて、自己と他者がともに切迫力のない、また感受できない「抽象的な顔」になっていることを学んだ。これを踏まえて顔面と〈顔〉との区別をして、筆者の述べる双方向的なコミュニケーションにおける「〈顔〉という現象」を理解する。また読解の前提となる「記号」という概念を捉え、言語の持つ一性質から身体を伴ったコミュニケーションのあり方を理解することができる。

（2）本時の評価規準

ア 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 知識・理解
①論理展開にも興味を持ち、自分の問題として考えようとしている。	②意味段落ごとのまとまりを基に論理展開や要旨を理解している。	④顔面の記号性を理解した上で、記号の概念を理解している。

(3) 本時の展開

時	○主な学習活動 ☆主な学習内容	具体の 評価規準	教師の指導・援助	評価の実際 (評価の観点・方法)
導入 (10)	○第1段落の要約の宿題の発表。 ☆前時の学習内容と本時の目標の確認。		・第1段落の要約の必要要素を複数生徒の発表から抽出する。 ・第1段落とのつながりを意識させる。	<u>観察・発問等</u> ・内容のまとまりを把握しようとしている。【読むこと】 【Cへの手立て】 ・必要内容をメモさせる。
展開 (45)	○第2段落を二人一組で音読する。 ☆読解箇所の全体把握。 ○p36-12「顔とは記号である」について、顔(面)の記号性を二人一組で確認する。 ☆言語事項を通じた本文の理解。 ○P38-2「声の現象」について読み取る。 ☆論理展開の理解。 ○「〈顔〉という現象」を理解した上で問題点を把握する。 ☆要旨の的確な把握。	アー① エー② オー④ エー② オー④	・向かい合って相手に聞こえる声で音読させる。(身体性を意識させながら) ・記号性を持つ顔は不特定多数の人が同じように意味を理解できる点で有効だが、表層的なコミュニケーションとしてしか機能しないことに気づかせる。 ・声の現象と顔の現象の共通点に注目させる。 ・P37-9「他人が他人として私たちに迫ってくる現象」とP38-11「人としての誰かある他者への切迫感のある現れ」という記述に注目させる。	<u>観察</u> ・音読を通じて段落の大意を捉えようとしているか。【関心・意欲・態度】 【Cへの手立て】 ・向かい合うように指示する。 <u>観察・発問等</u> ・身体を通した顔の記号性を具体的に読み取ることができる。【知識・理解】 【Cへの手立て】 ・身近な記号の例を挙げて、そこから顔の記号性に繋げていく。 ・「〈顔〉という現象」に関して繰り返される定義や顔面との対比に着目し、本文の記述を正確に読み取ることができる。【読むこと】 【Cへの手立て】 ・同内容の反復表現や具体・抽象の関係、対比関係に着目させる。
まとめ (10)	○第2段落を100字程度で要約する。 ☆要旨の的確な把握。	エー③	・第2段落の中心である〈顔〉という現象の定義から反れないよう注意させる。	<u>観察・ワークシート等</u> ・本時に学習したことが理解できている。【読むこと】 【Cへの手立て】 ・ノートから必要内容を確認させる。